

下ジカメの肝



たくき よしみつ

5

横位置の写真を縦に切ってみる

たびたびモデルとして登場してもらっているので、すっかりおなじみの大塚楽人くんです。

うちに遊びに来たときに撮ったものですが、少しでも表情が分かりやすいよう、横位置の写真を縦長に切り取りました。

最近のデジカメは、一般の使用には不必要なほど高解像度なので、半分くらいにトリミング（切り取り）しても、解像度的にはまず問題ありません。

ホームページに掲載する写真などは、さらに解像度を大幅に落とさなければなりませんが、トリミングは解像度を落とす前に、というよりも、あらゆる編集作業のいちばん最初に行います。解像度を落としてからトリミングをすると、さらに解像度は落ちて画像が荒れてしまい、損をするからです。



PENTAX K100D+シグマ18-50mm／全域F2.8

1/40秒、F 2.8

露出補正 -1/3 ISO 200

50 mm (75mm相当)

邪魔なものはサクッと消す

私が愛用しているフリーソフトIrfanView には、「ペイントダイアログ」という画像編集ツールがついています。文字入れ、線を描くといった単純な編集の他、「スタンプツール」というものを使って、背景の一部などをペタペタと貼り付けていくと、邪魔なものを消すこともできます。

この狛犬は福島県石川町の石都都古和気神社のもの。名石工・小林和平が、夭逝した3人の子供への思いを3匹の子獅子に託した名品ですが、背景が悪く、いつも写真は苦労します。

スタンプツールで、邪魔な背景をサクッと消してみました。難しい技に思えるかもしれませんが、やってみれば意外と簡単ですよ。

●元画像↓



●スタンプツールで背景の余計なものを消した↓



KONICA MINOLTA DiMAGE A200

1/200 秒、F2.8

8.40 mm (32 mm相当)

もう1例、あげておきます。

川崎市にある民家園で撮った古民家の内部ですが、説明用の札や「頭上注意」などの表示が邪魔で、雰囲気が大きく損なわれています（上）。これら邪魔なものを丹念に消していくと（下）、写真としてはぐっと魅力的になります。



PENTAX K100D+タムロン18-250mm/F3.5-6.3

1/8秒、F3.5、ISO 1600、露出補正 -1/3、18 mm (27mm相当)

画像編集の最後はシャープフィルタ

我が家のベランダで粉雪をかぶるゴロ（9歳）です。真っ黒なので写真を撮るのはいつも苦労しますが、雪の粒の白とうまくコントラストが出ました。

雪の粒がよく分かるよう、この写真にはかなりきつめにシャープフィルタをかけて、画像をくっきりさせています。

デジカメ写真は、そのままではブログやホームページに掲載するには解像度が高すぎるため、必ず縮小（解像度を落とす）処理が必要です。しかし、解像度を落とすと、画像全体がもやっとぼけた感じになります。

解像度を落とした後は、シャープフィルタをかけてください。ただし、シャープに加工した画像を縮小すると、またぼけてしまいますので、シャープ化の処理は必ず最後にします。



SONY CYBERSHOT F707

1/100 秒、F2.4

ISO 100

41.90 mm (200mm相当)

逆光も、ときにはすばらしい演出に

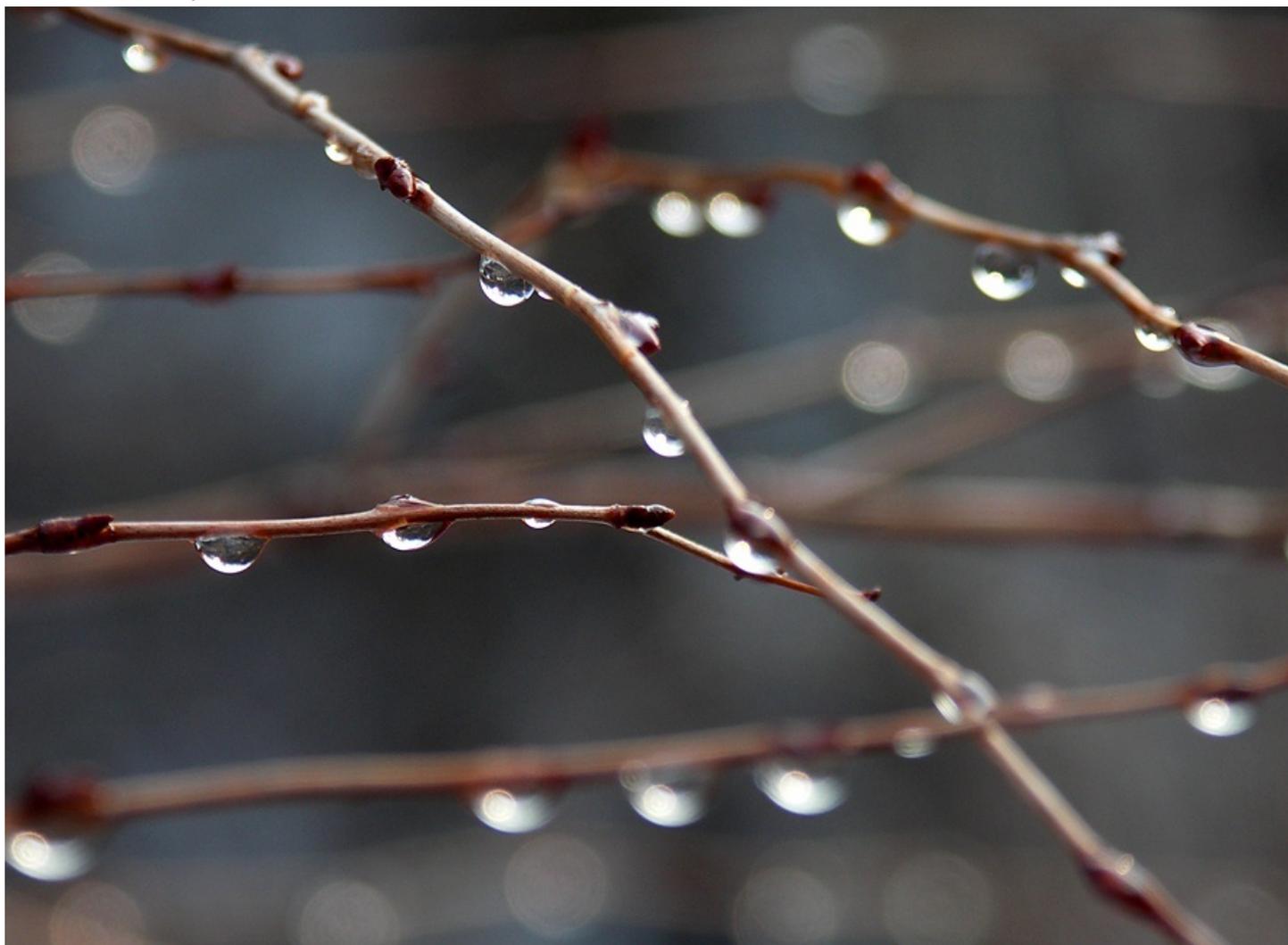
写真を撮るとき、太陽などの強い光源に向かって撮影することを「逆光」といいますが、これは、失敗写真の原因として、タブー視されています。

確かに、逆光で写真を撮ると、被写体が暗くなってしまい、人物などは表情が分からなくなります。

しかし、写真は「光と遊ぶ」のが醍醐味。デジカメなら、失敗してもどうということはありません。逆光を恐れずに、光を演出した写真に挑戦してみてください。

今回の写真は、林の向こうに沈む夕陽に向かって撮っています。小枝についた水滴が光って、幻想的な絵になりました。

逆光の場合、露出は普通より絞ったほうがいいでしょう。モニターで確認しながら、露出を変えてみてください。



KONICA MINOLTA DiIMAGE A200

1/60 秒、F3.5、ISO 100

露出補正 -2/3

50.80 mm (200 mm相当)

地味目の写真が絵画風に変身

倉庫の屋根に積もった雪が、今にもずり落ちようとしているところをポケットデジカメで撮りました。

しかし、ずり落ちそうな雪は面白いのですが、全体としては色味の薄い、地味な写真という印象がぬぐえません。

雪は写真に撮るのが難しい素材で、真っ白にとんでしまうか、ノペツとした無表情な面になってしまいがちです。そこで今回は、画像ソフトで絵画風のフィルターをかけて遊んでみました。どうでしょう。ちょっと不思議な趣になりましたね。

画像を水彩画風に変えるフィルターなどは、フリーの画像ソフトにもよくついています。地味目の写真に使うと、意外な味が出るかもしれません。サクッとかけて遊んでみましょう。

●元の写真↓



●画像ソフトで窓を追加して顔のようにし、絵画風にフィルターをかけた↓



SONY DSC-U50
1/500 秒、F4、ISO 100
5.00 mm (38mm相当)

降る雪を撮るには速いシャッターで

「雪シリーズ」第3弾です。

積もっている雪を撮るのも難しいですが、降っている雪を撮るのもっと難しいことです。普通に写真を撮ると、落ちてくる雪片は写っていないはずです。

これはシャッター速度が遅いからです。雪の落下速度は、見た目よりもずっと速いのですね。

この写真は「シャッター速度優先」モードで、1/1000秒でシャッターを切りました。普通のデジカメでオートモードで撮ると、もっと遅いシャッター速度になり、雪片は写りません。雪片を写したいと思ったら、オートではなく、シャッター速度優先モードに切り替えて、速いシャッターで撮ります。

ただし、速いシャッターを切るには「明るいレンズ」が必要です。暗いレンズで無理に速いシャッターを切れば、まっ暗な写真になってしまいますから。

これはSONYのF707という古いデジカメで撮りましたが、F2.0の明るいレンズが威力を発揮しました。

こうした明るいレンズを搭載したデジカメがどんどん消えていくのは、残念なことです。



SONY CYBERSHOT F707

1/1000 秒、F2.0、ISO 100

9.70 mm (198mm相当)

ちなみに、オートモードで撮ると、こうなります↓



これはシャッター速度が1/125秒。落ちてくる雪は写っていませんね。シャッター速度の違いで、これだけ違うのです。

ピント位置を変えてもう1枚撮る

ニット帽子を被った地蔵と、雪をかぶり始めた山。どちらも魅力的な被写体なのですが、どちらにピンとを合わせるべきでしょう……？

普通なら、手前の地蔵にピンとを合わせるべきでしょう。しかし、このときは迷ったので、手前の地蔵にピントを合わせた写真の他に、山にピントを合わせた写真、絞りを絞ってどちらもクリアに写し込んだ写真……と、何枚も撮っておきました。

手前の地蔵がちょっとぼけた写真は、普通に考えればピンぼけの「失敗写真」です。でも、これはこれでそこそこ味があり、何度か見ているうちに、単純に失敗写真とはいえないと思うようになりました。

このように、同じ写真でも、ピント位置を変えて複数枚撮っておくと、味わいの違う写真が同時に生まれます。後から比べて楽しめるので、倍、得した気分になりますよ。

SONY CYBERSHOT F707



●写真1 地蔵にピント 絞って山もクリアに
1/100 秒、F8.0



●写真2 山にピント 絞りは適度に
1/100秒、F6.3



●写真3 山にピント 絞りを開く

1/1000秒、F2.3



●写真4 地蔵にピント 絞りを開く
1/1000秒、F2.3



●写真5 地蔵にピント 絞りは適度に
1/100秒、F6.3

シャッター音で迷惑をかけない

一緒に暮らし始めて今年で10年目になるウサギのゴロは、奥歯が斜めに伸びるため、半年に一度、獣医さんに奥歯を削ってもらっています。

これは診察中をパチリと撮ったのですが、実際には「パチリ」という音はしていません。シャッター音は切っているからです。

ほとんどのデジカメはシャッター音をはじめ、すべての操作音をOFFにできますが、切っていない人が多いですね。なぜなのでしょう。

例外は一眼レフとケータイ内蔵カメラです。

一眼レフは構造上、必ずシャッター音がします。しかもかなり大きな音なので、使えない場所も多くなります。

ケータイ内蔵カメラのシャッター音を切ることができないのは、盗撮行為を防止するためです



SONY DSC-U50

1/15秒、F2.8

厳しい条件でもあきらめない

ステラ五重奏団というグループによる演奏会の模様です。

教会で行われ、肩肘張らない雰囲気を感じる演奏会でした。

この写真はSONYのDSC-U50という古い小型デジカメ（200万画素）を首からストラップでぶら下げて、そっと撮りました。

暗い、逆光、音をたててはいけない、動けない……という非常に厳しい条件でした。

今まで解説してきたことを思い出してみましょう。

フラッシュは使わない（当然この場ではダメ）。

手ぶれさせないためにネックストラップを使う。

カメラはレンズの明るさが大切（U50のレンズはF2.8）。

こうした原則を守れば、写真など到底無理に思える状況でも、この程度には撮れるという実例です。



SONY DSC-U50

1/8秒、F2.8

家の中で小物をプロっぽく撮る

この連載の初回は雛人形の写真でした。

連載も無事1年続き、今年も、できたてほやほやの雛人形を撮りました。

この写真、散らかった暗い居間の片隅で撮ったものですが、結構見られるでしょう？

まず、1枚数十円の模造紙をたわませて張り、背景を作りました。

照明はありあわせの蛍光灯スタンドです。光をやわらかく、かつ、なるべく均一にあてるために、スタンドの下には半透明のゴミ袋を広げました。

小物をきれいに撮るためのドーム型撮影セットなども売られていますが、そうしたものに頼らず、ありあわせのもので工夫して撮るのも楽しいですよ。



PENTAX K100D+シグマ18-50mm／全域F2.8

1/40秒、F4.5

ISO 200

23 mm (34 mm相当)

